

Citation: Meher S, Duley L. Garlic for preventing pre-eclampsia and its complications. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2006, Issue 3. Art. No.: CD006065. DOI: 10.1002/14651858.CD006065.

CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 12 January 2010

Clib issue No.; N/U: 2010 issue 2; Update

背景: ニンニクは血圧を低下させ、血小板凝集を抑制し、酸化ストレスを軽減する可能性があるという示唆は、ニンニクは子癇前症とその合併症の予防にある役割を果たす可能性があるという仮説に結びついている。

目的: 子癇前症とその合併症の予防におけるニンニクの効果を評価する。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2010年1月)を検索した。

選択基準: 子癇前症とその合併症の予防におけるニンニクの効果を評価しているランダム化試験を採択した。

データ収集と分析: 2人のレビューアが独自に組み入れるため試験を選択し、データを抽出した。データを解析するためReview Managerソフトウェアに入力し、正確を期するためダブルチェックした。

主な結果: 質が不確かである1件の試験(女性100例)で、ニンニクとプラセボを比較していた。もう1件の研究については、29%の女性がフォローアップ不能であったため除外されていた。妊娠性高血圧(相対リスク(RR)0.50、95%信頼区間(CI)0.25~1.00)あるいは子癇前症(RR 0.78、95%CI 0.31~1.93)を発症するリスクについて、ニンニク群とコントロール群の間に明らかな差はなかった。プラセボ群に対してニンニク群において匂いに関する報告がより多く報告されたが(RR 8.50、95%CI 2.07~34.88)、他の報告された副作用に有意差はなかった。報告された他のアウトカムは、帝王切開(RR 1.35、95%CI 0.93~1.95)と周産期死亡率のみであった。この研究において周産期死亡は1例もなかった。

レビューアの結論: 子癇前症とその合併症を予防するために、ニンニクの摂取を増やすよう勧告するにはエビデンスは不十分であった。ニンニクは匂いを伴うが、他のより重篤な副作用は報告されていない。臨床実践につなげるための勧告を作成できるまでには、更なるニンニクの効果を評価する大規模なランダム化試験が必要である。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日: 2010年11月18日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。